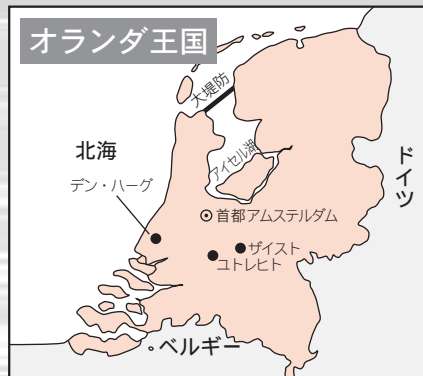




友好都市ザイストを訪ねて

海を越えた友情深める

～町ジュニア海外使節団交流記～



オランダ王国を訪ねた町ジュニア海外使節団（中学生8人、高校生2人）は1月6日から17日までの日程を終え、無事帰国しました。江戸時代にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、今年で12回目。生徒10人は友好都市ザイスト市でのホームステイを中心に、現地の人たちと友情を深め合い、町と同国の交流史に新たな1ページを刻みました。

町教育委員会の箱山智美指導主事を団長とした、豊間根中・山田中の2年生8人と山田高の2年生2人、引率者2人の山田町ジュニア海外使節団13人は1月6日から17日までの12日間、オランダ王国を訪ねました。1月6日に本町を出発した一行は、翌7日にオランダの玄関スキポール空港へ到着。ゲートを抜けると、国際交流団体ホフライスのステインスマ会長、クリスティック・リセイム・ザイ

10日と11日にはCLZ校での授業に参加。文化も言葉も違う同年代の生徒たちと同じ時間を過ごし、交流を深めました。12日はCLZ校でお別れパ

スト（CLZ）校のイングリット、フィッツシャー両先生、ガイドの山口千真さんが温かく出迎えてくれました。

8日には大堤防とアムステルダム市の国立博物館を見学した後、ザイスト市へ移動。CLZ校でホストファミリーと対面し、生徒たちは緊張しながらも、学習会で鍛えた英語を駆使して各家庭へと分かれていきました。9日に行われたCLZ校の歓迎会では、山田から持参した学校紹介のビデオが上映され、その映像にはCLZ校の生徒も興味深げに見入っていました。その後ザイスト市役所を表敬訪問し、ザイスト城とCLZ校の姉妹校であるCCZ校（職業専門学校）の見学を行いました。



異文化間の交流は互いを成長させる

ジュニア海外使節団団長
箱山智美 指導主事

今回団長を務めるに当たり、生徒たちに「自分がさらに変わっていく機会にしてほしい」「使節団に参加しようと思ったときの気持ちを忘れずを持ち続けてほしい」「個人個人の目標達成はもちろん、チームとして成果を出していきたい」と3つの願いを話しました。

私も3日間ホームステイし、じかにオランダの生活を体験しました。言葉がうまく伝わらない中、生徒たちも同じように頑張っているのだろうと思い、悪戦苦闘しながら過ごしていました。生徒たちからはそんな心配をよそに「楽しい」という言葉が次々と飛び出してきました。ホームステイ先で温かい対応を受け、有意義な時間を過ごしていることがよく分かりました。

CLZ校での歓迎は素晴らしいものでした。「ホームステイする中で、彼らが遠方より異文化の違いだけでなく、友情を求めにきたことに気付くだろう」同校で作成されたしおりの1ページ目にはそんな言葉が記されていました。「友情」という言葉を大切に、この機会が互いの生徒を育てていくのだという考えが伝わってきました。また、アムステルダム日本人学校との交流会で使節団と日本人学校の生徒たちが合唱した「ふるさと」を聴き、胸が熱くなりました。異なる環境、文化の中で成長している生徒たちの交流は、お互いを大きく成長させることを強く実感しました。

10人の生徒たちは日を追うごとにたくましさを増し、3つの願いに迫っていく手応えを感じました。生徒たちは学んだ多くのことを学校、そして山田町に持ち帰ってくるでしょう。今後の生徒たちのさらなる成長を期待しています。

ティーンが開かれました。ホームステイしてきた生徒たちの表情は最初の日の緊張の顔とは違い、ホストファミリーや同校の生徒たちと打ち解けた笑顔がそこにありました。パーティーでは山崎琴絵さんが空手の演舞、清水野佑季くんは不動尊神楽の舞を披露。そして使節団員全員で「上を向いて歩こう」「ふるさと」を練習でも出なかつた大きな声で合唱すると、会場から盛大な拍手が送られていました。

13日からは学校を離れ、キルダムイクの風車群やゴッホ美術館などを見学。14日に訪れたアムステルダム日本人学校では、日本語

が通じるせいか短い時間の中でたくさんのお話を語り合い、最後に「ふるさと」を全員で合唱しました。生徒たちが堂々と歌う姿に、合唱が終わったときには感動を覚えるほどでした。15日、ホストファミリーとの別れ。言葉の壁を乗り越え通じ合えた友とその家族との別れは、とてもつらいものとなりました。在オランダ日本国大使館を訪問し、スキポール空港へ。アムステルダム市内はまるで生徒たちとの別れを悲しむかのように雨が降り続いていました。遠くオランダの地ではぐくんだ友情を心に刻み、一回りも二回りも大きく成長した子供たちを乗せて、飛行機は日本へと出発しました。



親切にしてくれたホストファミリー

山田高 金澤あすかさん

初めてホームステイしてみても、最初は言いたいことをうまく伝えられず、積極的に話せなくてとても大変でした。でもホストファミリーの皆さんはいつもわたしのことを第一に考えてくれていて、日本食を出してくれたり、オランダ語を教えてください、とても楽しく過ごすことができました。

海外使節団に参加して、オランダの教育や家庭生活などを実際に体験し、多くのことを学びました。このような貴重な経験をさせてくれた山田町の皆さんに感謝し、これからの生活につなげていきたいです。



戦争に対する思い どの国でも同じ

山田高 山崎琴絵さん

一番印象に残っているのは、アンネ・フランクの家です。アンネはどんな思いをして2年間も暗い部屋で過ごしたのだろうと思うと胸が苦しくなり、涙が止まりませんでした。ホストファミリーにアンネの家に行ったことを話すと「戦争で命を落とした人はたくさんいるの。その人たちのため、わたしたちにはするべきことがあるのよ」と話してくれました。言葉や環境は違いますが、戦争の苦しみを分かち合い、どうにかしなければいけないという気持ちは、どの国でも同じであることに感動しました。

主な行動日程

1月6日…本町出発 7日…アムステルダム着 8日…大堤防、国立博物館など見学／ホームステイ先へ（14日までザイスト市内でホームステイ） 9日…CLZ校で歓迎セレモニー／ザイスト市役所表敬訪問 10日～11日…CLZ校の授業に参加 12日…終日ホストファミリーと過ごす／お別れパーティー 13日…キルダムイク風車保存地区、オルゴール博物館、ディック・ブルーナハウス見学 14日…アンネ・フランクハウス、ゴッホ美術館見学／アムステルダム日本人学校訪問 15日…ホストファミリーとお別れ／在蘭日本大使館表敬訪問／マドラーダム、木靴工場見学／アムステルダム発 17日…帰町